

2016年4月25日

札チャレラジオ通信 第16回

大山：三角山放送局をお聞きの皆さん、こんにちは。札チャレラジオ通信です。私はパーソナリティのNPO法人札幌チャレンジドの大山です。よろしくお願いします。札チャレラジオ通信は自立を目指す障害のある人がITでマザル、ハタラク、拓きあう社会を作りたいとの思いで活動しているNPO法人札幌チャレンジドが毎週月曜日の午後3時から30分間お送りしています。2016年の1年間、札幌チャレンジドの活動内容をお伝えしていきます。今週は就労移行支援グループの大山と赤坂が担当します。赤坂さん、よろしくお願いします。

赤坂：よろしくお願いします。

大山：1月から始まった札チャレラジオ通信なんですが、赤坂さんは実は今回が初登場なんですよ。いかがですか、今の心境を。

赤坂：とてもドキドキしています。

大山：ドキドキしていますか。ぜひ、自己紹介をまずお願いしたいんですけども。

赤坂：ラジオをお聞きの皆さん、はじめまして。札幌チャレンジドで就労移行支援を担当しております、赤坂かおりと申します。今年で札幌チャレンジドで2年目になりますので、どうぞ皆さんよろしくお願いいたします。

大山：よろしいですか。もっとたくさん喋っていいですよ。

赤坂：いや、もう結構です。

大山：いいですか、わかりました。では、今日のゲストなんですけれども、札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがるのセンター長、西尾大輔さんに来ていただいています。西尾さん、こんにちは。

西尾：こんにちは。

大山：よろしくお願いします。

西尾：よろしくお願いします。

大山：西尾さんには札幌チャレンジドに通うメンバーさん、発達障害のあるメンバーさんの支援ですとか、研修会などで大変お世話になっています。

西尾：とんでもないです。

大山：いつもありがとうございます。西尾さん、では自己紹介をお願いします。

西尾：ラジオの前の皆さん、こんにちは。札幌市の自閉症・発達障がい支援センターおがるの西尾といいます。今のセンターで6年くらい勤めているんですけど、その前は特別支援学校の教員を10年ほどやっていました。ずっと北海道で住んでいます。仕事もしていません。今日この、なんちゅうんですか、ブースっていうんですか、ここに初めて入って、学生のとときとかよくラジオを聞きながら受験勉強したりしてたんですけども、ここがそのブースかと思うと、あまり仕事とか関係ないんですけども、うれしい気分になるような場所で楽しみにしています。今日はよろしくお願いします。

大山、赤坂：よろしくお願いします。

大山：先ほどお話を聞いたんですけど、とてもウキウキしているという西尾さんの声があったんですけども。

西尾：先ほど写真撮影もさせてもらっていますので。

大山：ありがとうございます。では早速、西尾さんにいろいろ話をお聞きしたいんですけども、自閉症・発達障がい支援センターというところに今、お勤めということなんですが、そのセンターはどのようなところなのか教えていただけますでしょうか。

西尾：なんかセンターというと札幌市にもたくさんあると思うんですけども、僕のいる自閉症・発達障がい支援センターっていうのは札幌の中に一つあるセンターなんですけど、主にどんなことやってるかというところ、発達障がいのある方が利用している施設だったり、あとは通っている会社さんだったりとか、学校さんだったりとか、そういったところに僕ら一緒に行ってどうやって支援を考えてったり、伝えてったらいいのか一緒に考えるみたいな、そんなようなことをメインでやっています。あとは時々電話相談もやってるんです

けれども、スタッフがすごく、これ言っているのかな、少なめでして、なかなか電話が取れないですけれども、なんとか頑張ってみんなでやっているところです。

大山：ありがとうございます。どちらかというと、発達障がいのある方とかご家族の支援というよりは、その支援をしている学校ですとか会社ですとか団体などの支援をしている。

西尾：そうですね。

大山：そんな感じ。アドバイザー的な。

西尾：そういうことがメインでやってます。

大山：そうなんですね。

西尾：もちろん相談も受けてはいるんですけども、数限りある範囲でやってます。

大山：そのご家族ですとかご本人からもかかってくるかもしれないんですけど、そういう相談があったときというのはおがるさん以外のところとか、ほかの団体さんとかを紹介したりとか、一緒にどういうところがいいかなというようなところは一緒に行ってみてわかるんでしょうか。

西尾：そうです。結構、生活していると困っていることってたくさんいろんな分野であると思うんですよね。生活面で困ってるよとか、お仕事がしたくて困っているよとか、なかなかお金が合わないぞと、生活の支出が合わないぞとか。したけども、なんか困ったいろんなことがあるとあっていったときにどこに相談をしたらいいのかってのを整理したりするのが一つ僕らの相談の仕事ですかね。

大山：そうですね。では本当になんか困って、発達障がいがあって困っているという方が電話かけてきたときにそういうのを一緒に教えていただいて、

西尾：そうですね。

大山：それに基づいて、

西尾：そうですね。

大山：違うところに相談に行ってみようとかっていうことをすることもあるということですね。

西尾：はい。

大山：そうですね。

西尾：かぶせ気味な返事だと聞きにくいですかね。大丈夫ですかね。

大山：全然。大丈夫です。

西尾：大丈夫です。そうです。その通りです。

大山：センターの名前に札幌市とついているので札幌市の施設だと思うんですけども、例えばほかの近郊の市町村の方とかが利用するということはできるのでしょうか。

西尾：僕らのセンターは基本的には都道府県に1カ所と政令市に1カ所ということになっているので、北海道に1カ所、1カ所じゃない、北海道は広いので3カ所持っているんですけども、札幌市で1カ所。といったときに札幌近郊の町の方は北海道のセンターということになってしまうんですけど、ちょっと遠いので全然僕らのほうに近いので来てもらっても大丈夫です。

大山：そうですね。あとはどこにあるのでしょうか。

西尾：あとは函館と帯広と旭川なんですけど、

大山：そうなんです。

西尾：この辺の近郊は函館が対象になっているので大変ですよ。

大山：そうですね。

西尾：なので、

大山：そうか、例えば胆振とか日高にいる方がなんか利用したいというときは函館行かないかきいけ。

西尾：そうですね。それはちょっと無理があるので。

大山：ちょっと遠いですね。そうなんですね。全道に合計4カ所ということですね。

西尾：4カ所、そうです。

大山：なんかいろいろたくさんあるといいなと思うんですけども。

西尾：皆さんが声を挙げてくれればもしかしたら増えるかもしれないですけど。

大山：そうですね。わかりました。ありがとうございます。あと、例えばこの自閉症・発達障がいセンターおがるのこういうことをやっているよとかで、活動というかやっている、活動じゃないですね、センターのやっている仕事の内容ですとか、一緒に関わってやっている方たちのやっている内容を、仕事の内容とかを知れる場所とか、なんかそういう研修会とか報告会みたいなものはありますか。

西尾：ありがとうございます。僕ら結構いろいろなことをやっているんですけども、例えば4月には、4月2日というのは世界自閉症啓発デーというようなのがあるんですけども、そういうのを協力して親の会の皆さんとかとやったりですね、していて、何やっただろうなってよくみんなから言われるんですけども、5月の21日に社会福祉総合センターで僕らの実践報告会っていうのをやるので、ぜひそこにご参加、どなたでも来れるので、参加費も無料ですので、来ていただくと僕らはどんなことやってるかみたいなのがわかるように報告をしたいなと思っていますのでぜひご参加いただければと思います。

大山：5月21日って土曜日ですね。

西尾：土曜日ですね。

大山：時間は何時からになりますか。

西尾：9時半からだったと思うんですけども。

大山：9時半からですね。午後も、午前午後ともに。

西尾：3時半まで、3時40分かな、という予定です。

大山：社会福祉総合センターですので大通西 19 丁目ですよ。

西尾：そうです。

大山：確か私もチラシを前見せていただいていたんですけども、4 階の大きな会議室、

西尾：そうです。

大山：ですよ。

西尾：はい。300 人入るので一度全部埋めてみたいなと思ってるんですけど、かつて埋まったことはないのでは。

大山：でも毎年結構いらっやっていますね。

西尾：いやいや。ありがとうございます。でもまだまだ今年も入りますので。

大山：わかりました。その報告というのはおがるさんだけではなくて、ほかの関係している機関ですとか支援団体さんなどの、

西尾：ありがとうございます。

大山：活動内容も報告を、

西尾：そうなんです。

大山：していただけるんですよ。

西尾：午前中は札幌市の中でどんな発達障害のある方への支援のことが動いているのかみたいのがメインで、いろいろな自立支援協議会の人たちから教えてもらったりするところですね。午後が僕らが伺っている、一緒に支援考えたりしている事業者さんの実践報告なので、例えばお仕事のトレーニングをしているとこだったり、相談支援みたいのをやっているとこだったり、あとは矯正施設ちゅうんですかね、そういったところだったり、あとはお母さんたちだったりとか、いろいろな方が広くいらっやるので、興味あるとこだけ来ていただいても全然かまわないので。

大山：途中から参加しても、

西尾：そうですね。

大山：いいですね。わかりました。確か午前中、市からのというところで就労自立支援協議会のほうでは前々回に出ただいた協議会の就労支援部会の、

西尾：そうですね。

大山：部会長の重泉さんが報告というか発表をなさる予定ですね。

西尾：そうです。重泉さんが来るので、ぜひファンの方がいたら来ていただければと思いますけど。

大山：5月21日の9時30分から社会福祉相談センターでおがるさんの実践報告会があるということで、300人入るとのことですので、どなたでも参加無料で、

西尾：そうです。

大山：できるということですね。ぜひお出かけいただきたいと思います。では、このあたりで西尾さんのリクエスト曲をお願いしたいんですけども、曲名とあとなんかエピソードとかあれば教えていただけますか。

西尾：なるほど。発達障害の人たちってすごく人数が少なくて苦労しているんですけども、人数が少なくて苦労していたりするところにもすごく意味があるって僕は思ってて、そんな感じのところがこの Mr.Children の GIFT という曲を聞いていただいて、あ、そういうもんかなと思ってもらえるといいかなと思ってます。

大山：わかりました。では、お願いします。

大山：3時からお送りしている札チャレラジオ通信、今日のゲストは札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがる、センター長の西尾大輔さんです。引き続きよろしく申し上げます。

西尾：よろしくお願いします。

大山：後半は赤坂さんから西尾さんに質問などをお願いしたいと思います。

赤坂：よろしくお願いします。では早速まず一つ目の質問なんですけれども、西尾さんには今、月に1回機関支援ということで札幌チャレンジドに来ていただいて、発達障害ってそもそもなんだろうとか、その発達障害をお持ちの方にどう支援していったらいいのかっていうことなんかたくさん教えていただいているんですけども、西尾さんが発達障害をお持ちの方を支援するときに一番大切にしていることを教えていただければなと思います。

西尾：僕、いつも思うんですけど、発達障害っていう言葉があんまりピンとこないですよ。なんか障害って聞いたら何かできないとかネガティブな感じがしませんか。

大山、赤坂：そうですね。

西尾：なんか僕、それがすごく嫌で、彼らと話していると全然そんな感じではないというか、何か苦手というか、逆にすごい一面をいっぱい見せてくれる人たちが、札チャレにいる人たちもきっとそういう面がたくさんあると思うんですけど。だから、すごくそういうのが注目されればいいなっていつも思ってるんですけど、どうも普段の世界ではそういうことって注目してもらえないことが多くって、なんか僕らの前に現れるときってんですかね、その頃には結構元気がなくなっているというか、せっかくいいところがあっても元気がなくなっているのがもったいないなと思ってて、一番最初に僕が大事にしているのは、そのすごい特徴を、いい面たくさんあるんだけど、それでOKっていうか、それを別に潰す必要がなければ変える必要もなくって、それでまずOKでいいっていうのはいつも思ってるんですよ。

大山：やっぱり強いところっていうかね、自分の得意なところを伸ばしていくというのはいつも思うんですけど、それをどんどん認めてあげて、その人が自信を持って生活したりとか、仕事をしたりというのができるようになればいいなと思いますよね。

西尾：そうなんです。僕、これはもう分かんないですけどね、こないだあるSNSを見て、動画を見ていて、ある有名野球選手が言ってたんですよ。今の若い選手がすごく体を大きくしようとしているんだと。でもそれはもしかしたら違って、その人の体にはその人の得意な体つきがあって、別に体を大きくしたらいい選手になるわけじゃないんだよな、みたいなことを言って、それって発達障害の人たちも同じで、うまくできないことはもち

ろん誰にだってあるんですけど、彼らも結構たくさんあって、それを大きくしようとしてやっても、あんまりその人らしさみたいのはあんまり上がってこなくて、その人らしさってその人らしさのまま上がってきたほうがいいんじゃないかなって思っはいるとこなんですよね。それが一つ目で、二つ目言っていいですか。二つあるんですよ。

大山、赤坂：お願いします。

西尾：一つがその OK だと思っているってことと、もう一つはすごく苦労していると思うんですよ。発達障害のある方って、いろいろななんか調べたりすると 1 割ぐらいなんですって。1 割ぐらいっていうと、これも聞いた話で、僕全部聞いた話にしようとしているんですけど、左利きの人と同じぐらいなんですって。左利きの人って今だとなんかかっこよがられますけどね、数年前はなんか右に直しなさいみたいな、

大山：私、実はそうなんですよ。

西尾：そうですか。

大山：直された人なんですよ、私。半分まだ左利きなんですけどね。左利きなのが使いやすんですけど、でもペンとかお箸とか右なのでばれない左利きなんです。すいません。話それて。

西尾：いやいや、でも、それと一緒にかなと思っ、左利きの人たちって苦労してきたと思うんですよ。字、右で書きなさいって言われてうまく書けなくてちえってなっ、もう書道とか嫌だと思っ、たかもしれないんですけど、発達障害になる人たちもみんなの中にいるとちえってなるときがあっ、うまくみんなと同じようにできないことがいくつあるんで、できる体験をする時間が少ないんですよ。みんな用にできてるからっていうんですか、発達障害じゃないタイプ用に世界ができているのでできる時間が少なくて、本当はみんなたくさんできる経験して大人になるのにできる経験を得るのが少なくて大きくなっちゃったりするんで、できれば成功してもらいたいなっ、特に小さい子なんかにはそういう経験はたくさんできるようにしたいなっ、これが二つ目で、うまくできるように工夫するっ、というのが一つ僕らの仕事なんだろうなっ、思っ、ます。

大山：そういう体験を何かこう、どんどん成功体験を積んでいく場所というか、何かそういうのができる施設とかあるんでしょか。

西尾：たぶんそこが札幌チャレンジドなんじゃないかと思っ、。

赤坂：はい、ありがとうございます。

大山：一つなんです。責任重大ですよ。

西尾：今なんかいろいろ見たりしたらよく出てるんですけど、見せて伝えるとかっていうのがすごく彼らとしては分かりやすいので工夫の一つかなと。もちろんそれだけではあれですけどね。分かるわけでは、全部じゃないんですけど。そう思います。

大山：ありがとうございます。あとじゃあもう一つ質問いきましょう。

赤坂：最後に西尾さんから見た札幌チャレンジドはどんな感じでしょうか。

西尾：札幌チャレンジドさんには僕もすごくお世話になってて何回も行かせてもらってて、みんなのスタッフもすごく優しくて、きっといっぱい OK も出してもらえるし、うまくできる経験をたくさん増やせる場所なんじゃないかなと思ってますのでなかなかあれですかね、いつも満員なのかもしれないですけども、すごくいいところなので仕方ないなと思ってます。

大山：たくさん OK を出してね、本当にできるんだという経験を積むというのを西尾さんのおっしゃってた本当に二つ目のことですよ。一つ目も自分らしくて OK だということと、あとは工夫して、

西尾：そうですね。

大山：体験をどんどん積んでいく。私たちも肝に銘じて続けていきたいなと思います。あと言い足りないことはないでしょうか。

西尾：言い足りないこと。5月21日に実践報告会、300人入るのでぜひ来ていただければなと思ってます。

大山：西 29 丁目の社会福祉総合センターの 4 階ですね。

西尾：西 19 丁目です。

大山：失礼しました。西 19 丁目ですね。そちらで 5 月 21 日に報告会がありますので、

よろしくお願いします。この番組を聞いて札幌チャレンジドをぜひ見学してみたいという方、いらっしゃいましたらぜひご連絡をください。電話は 011-769-0843、769-0843、営業時間は月曜から金曜までの平日午前 9 時 30 分から午後 5 時 30 分、住所は札幌市北区北 7 条西 6 丁目北苑ビルの 2 階です。今日は札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがる、センター長の西尾大輔さんをゲストにお送りしました。西尾さん、ありがとうございました。

西尾：どうもありがとうございました。

大山：ではまた来週お会いしましょう。さようなら。

赤坂、西尾：さようなら。